

エンツォ

1996 No.62

8
350円

次号は8月2日発売



創刊5周年読者プレゼント
好評第2弾!

イタリア車特集

ランチア・アルファロメオ・フィアット
とびきり上手が大好きです





とびきり上手が大好きです

特集

イタリア車



Bravo!

YOUNG AT HEART

時が過ぎても好きなクルマを選びたい。
だから気持ちはあの頃のままだに
ヤング・アット・ハート。
とびきり上手に不良する！



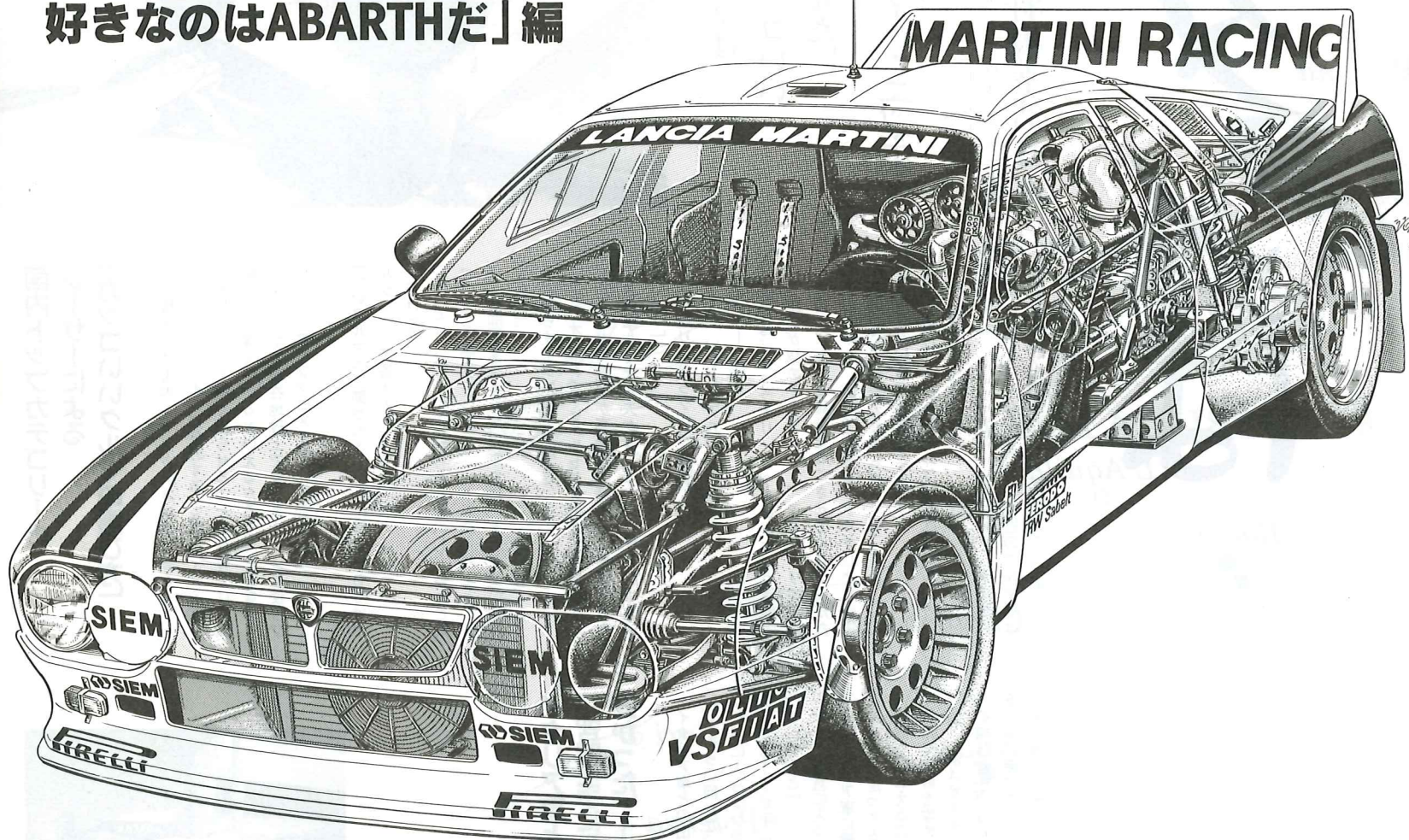
M [今月の表紙]

MONTHLY CAR SELECTION

'83 LANCIA RALLY 037

文のまとめ：ヒデオ 撮影：谷瀬 弘 車両協力：大沢常夫 LANCIA RALLY 037
横山 渡 LANCIA DELTA HF INTEGRALE EVO.II SPECIAL THANKS：鳥羽昭伸 BIALBERO

「LANCIAでもFIATでもない 好きなのはABARTHだ」編



構造イラストレーター
山田ジロウがバシッと解説

'75年から3年間、WRCのチャンピオンに君臨したランチャ・ストラトスは78年、突如その座をフィアット131アバルトに譲ります。これはフィアットグループの販売戦略によるもの。ラリーフィールドから追われたランチャはサーキットに戦いの場を求めますが時代がそれを許さなかった。WRCのさらなる興隆を求める声によりグループB規定が導入され、モンスターマシンが必要とされたのです。出てこいランチャと。

- 編集部◎コンパティションカー「037」。シビれます。ジロウ・今月の僕は一味違うよ。アバルトなんだから。
- ◎..71年にフィアット傘下になったレース専門のチューニング会社、ABARTH。でも、今月はランチャでしょ？
- ◎..少し違うんだなこれが。ランチャ・ラリー037はランチャを含むフィアットグループの表向きの名なのです。本当の名は「ランチャ・アバルト・ラリー」。今月のクルマは、ネジ一本までアバルトで作られていたのです。
- ◎..ジロウ・ラリー・ヤマダ・アバルト。爪の先までレースとアバルトが大好きでした。
- ◎..うん、その呼称、スコク好きだなあ。
- ◎..ジロウさんの趣味はラジコンとジムカーナ。かつてはX1/9にハイカムを装着して「ブッシュアンダーのジロウ」の名を欲しいままにしていたのです。
- ◎..うん、その呼称、スコク懐かしいなあ。
- ◎..では懐かしついでに「アバルト・ラリー」の歴史を回顧してくださいませんか。
- ◎..131アバルトに続くラリーカーとして、当初はリトモの名が挙がっていたので
- す。しかしグループBの生産規定台数は200台と極く少数。ならばストラトスの再現とばかりに、フィアットグループは、ミッドシップレイアウトを採用するランチャ・ペータ・モンテカルロに注目したのです。コードネームは037。アバルトが開発を担当した37番目のマシンです。モンテカルロの前後セクションはパイプフレームで組まれ、足回りの強化が行なわれていました。
- ◎..4WDのアウトディ・クアトロがやってくる頃ですね。
- ◎..それを言わないで。82年、クワトロは圧倒的な強さでメイクスをゲット。かたや037はエンジンの耐久性に難が。
- ◎..アバルト製とは言え、やはりイタリア車だった。
- ◎..ところが。翌年はターマックはもちろん、4WDが有利とされるグラベルでも勝利。かたやアウトディはメカニカルトラブルも発生。みごと037はタイトルをゲット！
- ◎信頼のブランドならイタリアアンカーだったと。
- ◎..僕のバンダも信頼性アリ。
- ◎..今月はそう締めましたか。